

ヲ離レテ他處ニ走ル事ナシ同氏ハ素ヨリ盲人ナルヲ以テ其横線何ノ處ニ畫セルヤヲ知ルノ理斷エテ有ル事ナシト雖トモ其指頭ノ全ク各音ノ位置ニ至ルヲ見レハ以テ我俗曲ニ用フル所ノ声律ハ自ラ西洋ノ律ニ異ナラザルヲ證スルニ足ルベシ尤三絃ノ如キ不完全ナル樂器ハ音調狂ヒ易キモノナルヲ以テ理学的ニ精確ナル結果ヲ求メン事ハ得テ望ム可ラザルナリ

第二 箏曲ノ調子

平調子ト稱スル所ノモノハ二ノ絃ヲ第一音トシ三ノ絃ヲ第二音トシ四ノ絃ヲ第二音嬰即チ短第三音トシ五ノ絃ヲ第五音トシ一ノ絃ハ之ト同律ナリ然シテ六ノ絃ヲ第五音嬰即チ短第六音トシ七ノ絃ヲ第八音トス即チ二ノ絃ノ乙音ナリ其他諸絃ハ次ヲ逐テ諸音ノ乙音トナリ又斗為巾ノ三絃ハ丙音トナルモノナリ

箏曲ニ用フル所ノ調子ノ類多シト雖トモ其律ニ異ルトコロナキハ準シテ知ルヘキナリ

右ニ掲ケタル平調子ナルモノハ西洋ノ短音階ニ毫モ異ナル事ナシ抑モ短音階トハ第三音ト第六音ノ短ナルモノヲ稱スルナリ
西洋ノ音樂ニハ長音階ト短音階トノ二種アリテ之ヲ併用セザルニ非スト雖トモ多クハ長音階ヲ用ヒ短音階ハ悲哀ノ曲ノ如キ陰氣ヲ

短音階	長音階
音八第	音八第
音七第	音七第
音六第	音六第
音五第	音五第
音四第	音四第
音三第	音三第
音二第	音二第
音一第	音一第

帶ルモノニ非レハ之ヲ用フル事甚稀ナリ然ルニ本邦ノ音樂ニハ短音階ヲ用フル事却テ多ク偶々長音階ヲ用ヒント欲スルトキハ第三音ト第六音トヲ高クスト云ヘリ今長短二種ノ音階ヲ示ス左ノ如シ
〔上段の図〕
以上歷擧スル所ノ諸證ニヨリテ見ルトキハ我音律ト西洋ノ音律トハ毫モ異ナル所ナシト論決シテ可ナリ

(三) 「本邦音階ノ事」

我邦在來ノ音樂ハ之ヲ大別シテ二種トス曰ク雅樂曰ク俗樂是ナリ蓋シ雅樂ハ支那傳來ノ音樂ナリ支那ノ音樂ニ於テハ宮商徵羽ト云フ事アリ之ヲ總稱シテ五声ト曰フ是レ音樂ノ基礎ヲナスモノニシテ支那ニ於テモ其由來最モ久シ然而シテ支那ニテハ音律ヲ調スルニ古來三分損益ト云フ事ヲ唱ヘ日本ニテハ順八逆六ト云フ事ヲ唱ヘ來レリ其大略ハ左ノ如シ



今音樂上ノ術語ヲ以テ之ヲ説ケハ順八ハ第五音ニシテ逆六ハ第四音ニ當レリ即チ順八トハ五音ヲ加フル事ニシテ逆六トハ四音ヲ減スル事ナリ故ニ本邦音樂家ノ云ヒ來リシ順八逆六ト云事ハ五音ヲ加ヘ四音ヲ減スルト同シ但シ呂旋ニ在リテハ此法ヲ以テ諸音ヲ取り得ベシトイヘトモ律旋ニテハ少シク難キ所アリ故ニ順六逆八ナルモノヲ

用フルヲ便トス即チ壹越ヨリ双調ニ至ルハ順六ニシテ黄鐘ヨリ壹越ニ至ルハ逆八ナリ然レバ則チ順六ハ四音ヲ加フルニ同シクマタ逆八ハ五音ヲ減スルニ同シ

壹越、断金、平調等ノ律名ヲ用フルハ唱歌上ニ演奏上ニ其他記譜上等ニ不尠少カラサルヲ以テ本掛ニ於テハ從來(イ)(ロ)等ノ假字ヲ以テ其用ニ供セリ即チ二者ヲ對比スレバ左ノ關係ヲ有スルヲ知ルベシ

ニ [#]ハ ハ ロ [#]イ イ [#]ト ト [#]ヘ ヘ
壹越、上無、神僊、盤涉、鸞鐘、黄鐘、鳧鐘、双調、下無、勝絶、

ホ [#]ニ ニ
平調、断金、壹越、

又宮商角等ニ代フルニハ(1)(2)(3)等ヲ以テセリ是レ要スルニ其理ヲ同シテ其用ニ便ナルヲ以テナリ即チ二者ヲ對比スレバ左ノ如シ

1 6 5 3 2 1
宮 羽 徵 角 商 宮

抑音樂ノ學理上ニ於テハ宮商角徵羽ノ五声ヲ以テ足レリトスルトコロナリトイヘトモ實地家ニ於テハ樂曲製作上ナホ不完全ヲ覺フルニヨリ更ニ二ケノ変声ヲ要シ之ニ由テ始メテ音律ノ完全ナルヲ得タルモノトス但シ此変声ノ入ルベキ所ハ甚タ不定ナリト雖トモ何レニセヨ変声ヲ要スルハ必定ナリ蓋シ呂旋ニ在リテハ其変声ハ先ツ之ヲ角ヨリ順八ニトルベシ角ヨリ順八ハ即チ變宮ナリ因テ次ニ變徵ヲトル變徵ハ變宮ヨリ逆六ニシテ之ヲ得ベシ是レ本邦音樂實地家ノ要スルトコロノモノナリ

倍之ヲ西樂ニ所謂自然長音階ニ比スベシ該音階ニテハ本掛所製ノ

調絃歌ノ如ク先ツ(1)ヨリ(4)ニ至リ次ニ(1)ヨリ(5)ニ至リ次ニ(5)ヨリ(2)ニ(2)ヨリ(6)ニ(6)ヨリ(3)ニ(3)ヨリ(7)ニ至ル然レハ自然長音階ト日本呂旋ト異ナル所如何ト云フニ呂旋ニ在リテハ(4)ノ音程半音高シ即チ嬰第四音ト為ル是レ變宮ヨリ逆六ニ取リタルヲ以テナリ然レトモ若シ之ヲ宮ヨリ順六ニトラバ則チ其第四音ノ正シキモノヲ得ベシ故ニ其相異ナルトコロハ獨リ變徵ノ取方ノミニ存セリ變徵ハ或ハ退徵ニ至リ第四音トナル事アリト云ヘリ夫レ自然長音階ト我呂旋トハ此ノ如クタゞ一ケ不定音ノ異ナルトコロアルノミトス然リ而シテ變徵ハ我音樂ニ出ル事甚タ希ナリモシ此變徵ノ常用ナルモノナランニハ此音ノナキニ苦シムベシ然レトモ變徵ハ至テ希ニ出ルヲ以テ此ノ變徵ノ全ク欠クルモマタ理論上及ヒ技術上敢テ大ナル影響ナキモノトセリ

自然長音階ト呂旋ト相等シキ事其レ此ノ如シ故ニ之ニ(1)(2)(3)等ヲ記入スレバ左ノ如シ

自然長音階	1	宮
	7	宮 變
	6	羽
	5	徵 變
	4	角
	3	商
	2	宮
	1	宮

蓋シ變徵ハ(5)^イ(4)^イ(5)^イ(ヤ)ニ當リ西樂ニ於テモ此音ハ最モ動キ易キモノノ一トス

次ニ律旋ニ就テ述ベントス律旋モ亦宮商角徵羽ヲ以テ成レリ但シ此旋法ニ於テ先ツ呂旋ニ異ナル所ハ角ニ在リトス即チ律角ハ呂角ニ比スレバ一律ヲ高クス其調音ハ宮ヨリ順八ニテ徵ヲトル徵ヨリ逆六

ハ商トナリ商ヨリ順八ハ羽トナル茲ニテ呂旋ナレバ羽ヨリ角ヲ取ルベキナレトモ律旋ナルヲ以テ宮ヨリ順六ニ其角ヲ求メサル可ラズ律旋ノ五声既ニ成ル然レトモ律旋モマタ五声ノミニテハ少シク足ラザルトコロアリ故ニ嬰羽嬰商ノ変声ヲ要セリ嬰羽ハ角ヨリ順六ニ當リ嬰商ハ嬰羽ヨリ逆八ニ當ル順八ハ律旋ヲ調スルニ必要ノモノトス雅樂ニテ箏ヲ調フルニモ實際順六ノ法ヲ用フルト云フ律旋此ニ於テ成ル今之ヲ自然短音階ニ比較スベシ

自然短音階	1	宮
	7	羽 嬰
	6	羽
	5	徵
	4	角
	3	商 嬰
	2	商
	1	宮

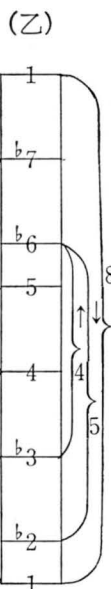
今此ニ音階ヲ比較スルニ自然短音階ニ在リテハ第六音ハ $(b6)$ ニシテ律旋ニ在リテハ (6) ナリ是レ彼此相異ナル一點トス

然ルニ律旋ノ唱歌ハ理論上ニハ羽ニ至ルベシトイヘトモ樂器ナキトキハ往々 $(b6)$ ニ下ルヲ發見セリ是レ其動キ易キモノナル所以ナリ蓋シ此第六音ハ音階上緊切ナル關係ヲ有スルモノニテ第三音ノ短ナルトキハ此第六音モ又短トナルヲ常トスルモノ、如シ故ニ呂律ニ旋法ノ自然音階ニ異ナル所ハ律旋ニテハ $(b6)$ ニ在リ呂旋ニテハ $(\#4)$ ニアルモノニシテ其變異タル全ク不定音ニ屬スルモノノミニシテ大体ニ於テハ相同シキ事自ラ明了ナルベシ

偕是ヨリ俗曲音階ニ涉ルベシ此音階ニ就テハ從來研究シタル者ナクシテ未タ之ヲ確定スル能ハストイヘトモ本掛ノ研究ニヨリ先其真ニ近キモノニ據テ論ヲ立ントス但シ今日茲ニ其二音階ヲ講述スベシ

トイヘトモ未ダ決シテ之ヲ以テ本邦内ノ俗曲皆歸ノモノトハ為スベカラザルナリ

凡ソ音階ノ研究ニ就テ一困難ハ宮タルベキ音ヲ發見スルノ難キ是ナリ西洋ノ如ク音階ノ正シク確定セル所ニテハ其事タル其タ容易ナリトイヘトモ本邦俗曲ニテハ未タ音階ノ一定セルトコロヲ發見セサルヲ以テ甚タ之ヲ難シトス熟々古今ヲ歴觀スルニ我俗曲ニ於テモタミナ多クハ宮音ヲ以テ始リ宮音ヲ以テ終ルモノ、如シタトヒ或ハ宮ヲ以テ始ラザルモ宮ヲ以テ終ルアリ蓋シ從來研究シタルトコロニ於テハ俗曲ノ宮ハ西樂 (ハ) 調音階ノ (ロ) ニ當ルモノトス雅樂ニテハ順八逆六或ハ順六逆八ノ取方ニテ調ヲ定ムル事既ニ上述スルカ如シ俗曲モマタ其理然ルヲ信セリ俗曲中一種ノ音階ハ即チ左ノ如シ

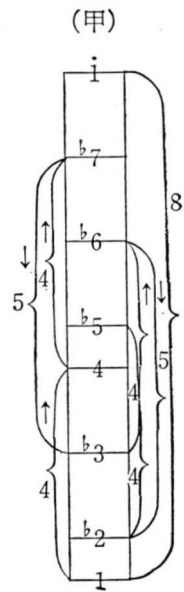


此音階ニ於テハ先ツ (1) ヨリ (4) ニ取リ次ニ (1) ヨリ (5) ニ取リ次ニ (4) ヨリ更ニ (4) 音上ニ取ル即チ $(b7)$ ナリ次ニ此 $(b7)$ ヨリ (5) 音下ニ取ル即チ $(b3)$ ナリ次ニ $(b3)$ ヨリ (4) 音上ニ取ル即チ $(b6)$ ナリ次ニ $(b6)$ ヨリ (5) 音下ニ取ル即チ $(b2)$ ナリ

音階ノ構成上ニテ調子ヲ取レハ如此ナレトモ實地音樂ニテハ更ニ便法ニ據リテ諸音ヲ調スルモノアリ

俗曲ニハ此他ナホ一種ノ音階アリ此一種ニ於テハ前ノ一種ニ異ナルトコロハ (5) ノ $(b5)$ トナルノ一點ノミニ在リ律ノ取方ハ即チ記號ヲ以

テ指示スル如シ



抑俗曲中ニ往々此種類ノモノアリトイヘトモ田舎ノ童謡等ノ如キ風俗歌中ニハ或ハ決シテ此ニヨラズシテ却テ自然音階ニ近似セルモノアリ故ニ斯ノ如キ音階ヲ以テ本邦固有ノ音階トハ為スベカラザルナリ

音律ハ生活物ノ所用ニ属スルヲ以テ演奏ノ際自然ノ変化ヲ来スハ数ノ免レザル所ニシテ従来ノ研究ニヨレバ其律次第ニ上騰スルハ信シテ疑ハザルトコロナリ故ニ今日壹越ト称スル所ノ律モ數百年ノ後ニハ今日ノ断金ニ等シキニ至ルベク又今日ノ黄鐘ハ古昔ノ黄鐘ニ等シカラザルハ唯理論上ニ然ルノミナラズ其證憑分明ナリトス然リ而シテタトヒ音律ハ斯ノ如ク変シ易キモノナルモ其調子ノ取方ニ至テハ千古不變ナルモノトス即チ壹越ノ律ヨリ黄鐘ノ律ニトルガ如キハ壹越ノ律上騰スレバ黄鐘モ亦隨テ上騰スベク其四音五音ノ關係ヲ有スルハ未ダ曾テ變ゼザルトコロニシテ天下普通ノ大理ナリ其詳細ノ如キハ次項ニ就テ更ニ之ヲ證論スベシ

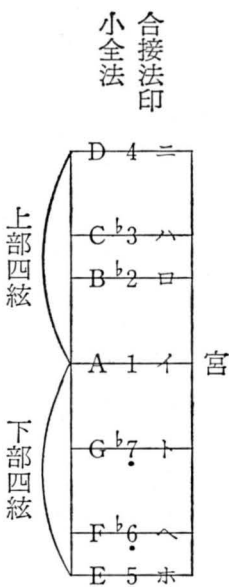
(四) 「希臘音律ノ事」

音樂ハ史冊ニ由ラズシテ樂曲又ハ樂器ニ由リテモ亦能ク其系統血脈ヲ推究スルヲ得ベシ其理例ヘバ地質學上ニ於テ太古ノ時代ニ属シ

タル生物ノ化石ト為リテ今日見ルベキモノアルトキハ之ニ因テ數百萬年ノ往時ヲ眼前ニ提出スルヲ得ルカ如シ抑音樂上ノ化石トモ云フベキハ音階ナリ音階ヲ以テハ有史以前ノ太古ニ属スル事情モマタ之ヲ一ニ目ニ證認スルヲ得ベシ然リ而シテ音樂史上古代ニ属スルモノ甚ダ多シトイヘドモ之ヲ證明スルノ最モ確切著明ナルモノハ即チ希臘ナリ

希臘ニテ最モ古キ樂器ハ「ライル」ナリ「ライル」ノ絃ハ初メ四筋ニシテ此樂器演奏ノ際ハ之ヲ左ヘ抱ヘ持チ右手ニテ彈ゼシモノナリ其絃四筋ナルヲ以テ又之ヲ「テトラコルド」(四絃琴)ト称セリ即チ太古ハ此四絃ノモノナリシカ中古ニ至リ一變シテ七絃ノモノト為リタリ希臘ニテハ中絃ヲ宮ト為ス即チ宮ハ常ニ拇指ヲ用ヒテ之ヲ彈シ次ニ食指ヲ用ヒタルモノ、如シ

太古希臘ノ樂器ハ此ノ如ク粗末ナルモノナリシガ他ニマタ我筆築ニ類似シタルモノアリナホ其他二三ノ樂器モアリトイヘトモ其最モ貴重セシモノハ此「ライル」ナリ但シ此ニ於テ專ラ講究スルヲ要スル所以ノモノハ樂器ニアラズシテ其律ノ取方ニアリ故直チニ其要點ニ進ムベシ抑此樂器ニ於ケル律ノ取方ハ之ヲ音階ニ構成シテ解明スレバ即チ左ノ如キモノト為ル



上記スル所ハ希臘最古風ノモノナリ